



温故知新

千葉を知る

二十三、飛び立てコアシサシ 人と自然が共生できるまち

1992年、政令指定都市移行を記念して行われた市民公募で、1万4千通もの支持を集めて市の鳥に制定されたのがコアシサシです。



ひなに餌を与える親鳥

4月ごろにオーストラリアなどから渡ってくる全長28cmほどの夏鳥で、浅瀬に勢いよくくちばしから飛び込んで小魚をとる姿を千葉の海のそこかしこで見ることができました。9月には生まれたばかりの幼鳥とともに、地球3分の1周の距離を鳥伝いに飛んで帰ります。

1990年代までは多くのコアシサシを見ることができた千葉の海も、営巣に適した砂浜や河川敷などの減少とともにその数は減り、全国でも減少が見られたことから環境省は絶滅危惧種Ⅱ類(VU)に指定しました。



営巣地の整備

調査や保護対策を実施してきたところ、2003年に検見川の浜で、人工海浜としては日本初となる営巣が確認されました。その後も検見川の浜に営巣するコアシサシを守るため、毎年保護柵を設置しています。

市では人と自然が共生できるまちを目指し、希少な生物が生息できる豊かな自然環境を守るため、地権者やボランティアなどの協力のもと、自然保護事業を推進しています。

閩都市アイデンティティ推進課 ☎245-5660 FAX245-5476



学芸員が選ぶ

今月のイッピン

立石タイガー 《富士のDNA》

1992年 courtesy of ANOMALY

ラフなスタイルでくつろぐ人物と犬の姿が印象的です。この作品は自ら「タイガー立石」と名乗り、国内外で活躍したアーティストの自画像(部分)です。本名は立石 紘一。



立石は1941年に現在の福岡県田川市に生まれ、60年代ははじめから前衛的な美術の世界に身を投じました。彼ははやがて漫画を描くようになり、人気を集めるようになります。漫画家としての生活に疑問を持った彼は、1969年にイタリアに移住しました。13年にわたって同地を中心に絵画の制作や発表、イラストの仕事を行い、1982年に帰国。しばらくは東京で生活していましたが、1985年に夷隅町(現いすみ市)に転居。1998年に56歳で亡くなるまで千葉を活動の本拠地としました。



葎科学芸員

閩市美術館 ☎221-2311 FAX221-2316

立石は若い頃から富士山を自らの作品の中で大衆的・通俗的な日本の象徴として扱っていました。しかし、海外での体験によって自らが日本人であることを再認識したのです。帰国後に制作されたこの作品の題名にはその思いが込められています。



東京2020オリンピック・パラリンピック関連情報

さあ、MAKUHARI から未来へ

幕張メッセで7競技開催

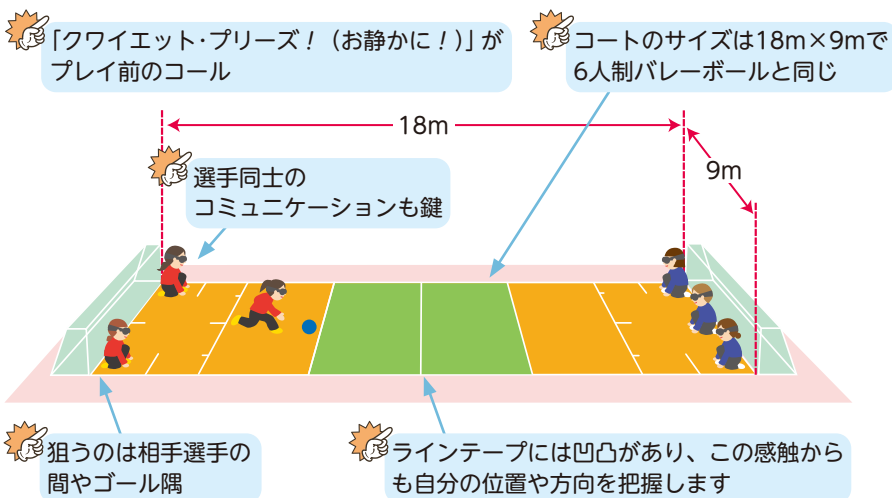
押さえておきたい 幕張メッセ開催競技のツボ ~今回はパラリンピック競技を深掘り!~

ゴールボール

アイシェード(目隠し)で視界を完全に遮断した状態で、鈴入りのボールを相手ゴールへ投げ込み得点を狙うゴールボール。視覚以外の感覚を研ぎ澄まし、ボールや選手の位置・動きなどをいかに察知するかが重要です。

スポーツには、相手の意表を突くさまざまなフェイントがありますが、ゴールボールにも特有のフェイントがあります。選手が連携して動き、わざと音を立てたり、逆に音を立てずに味方へ手渡しでパスすることで、投球する選手やボールの位置を分かりにくくする「音のフェイント」です。選手の動きに伴う「音」にも、ぜひ耳を澄ましてみてください。

詳しくは、[東京2020 ゴールボール](#)



閩オリンピック・パラリンピック振興課 ☎245-5739 FAX245-5299

テコンドー

東京2020パラリンピックで開催されるテコンドーでは、上肢に障害のある選手が胴体への蹴り技のみで勝敗を競います。種目のうち、例えば男子75kg級では61kgから75kgまでと体重差が最大14kgになりますが、防御にもさまざまな個性や工夫があり、自分の強みを活かし、体の小さな選手が大きな選手に勝利することもあります。

通常蹴りには2点、180度の回転が加わる後ろ回し蹴りには3点、さらにそこから軸足を入れ替え計360度の回転蹴りになると4点が入ります。難易度の高い蹴り技ほどポイントが高くなります。体格差を越えた攻防、そして繰り出されるダイナミックな蹴り技の応酬は迫力満点!



電子防具が蹴りに反応

詳しくは、[東京2020 パラテコンドー](#)

種目	最大14kgの体重差!		
男子	61kg級	75kg級	75kg超級
女子	49kg級	58kg級	58kg超級

回し蹴りなどの技の難易度は副審が判定